

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

120 年を超える伝統を有する本校は、グローバル（Global+Local）教育や探究活動などの先進的な教育を通して、世界や地域と協働しながら、探究心と豊かな人間性を育み、「地球的視野に立ち、地域や国のことを考えて行動する。国際社会に貢献できるグローバル・リーダー」を育成する。 ＜生徒に育みたい力＞ (1) グローバルな視野とコミュニケーション力 (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力 (3) 社会貢献意識と地域愛
--

2 中期的目標

1 確かな学力の育成 (1) 確かな学力の育成のため、各教科・科目においては、観点別評価を踏まえた授業・評価サイクルづくりを念頭に授業改善に取り組み、知識・技能にとどまらず、思考力・判断力・表現力及び、生徒の主体性・協働性を育む個別最適な学びを実施する。 ア 観点別評価を踏まえた授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。 イ 各教科において「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。 ウ 「オンライン学習研究委員会」を核として「1 人 1 台端末」の効果的活用を学校全体で進め、生徒の学びを支援、深化させる。 ※（生徒対象）学校教育自己診断における授業満足度（R 5：90%、R 6：89%、R 7：85%）を向上させ、令和10年度も90%以上を維持する。 2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み (1) スーパーサイエンスハイスクール（SSH）として、高等学校の科学教育の拠点として、「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成し、進学実績の向上させる。 ア 科目「グローバル探究」では、「地域と連携した探究貢献活動」を展開するとともに、大学や研究機関との連携による先進的な理数系教育を実践し、社会への貢献意識及び自己実現意識を育み、世界とつながり活躍できる科学的人材を育成する。 イ・進路希望実現のため、進路指導部及び学力向上委員会が中心となって、キャリア教育を含め様々な取組みの具現化を行う。 ・国公立大学進学者の合格者数（現役合格 R 5：72名、R 6：98名、R 7：73名）について、令和10年度には現役で100名以上とする。同時に自己実現の志を高く維持させ、難関大学（京都、大阪、神戸等）への受験者増を図り、令和10年度には現役合格者数30名以上とする。 ※（生徒対象）学校教育自己診断における進路指導の満足度（R 5：94%、R 6：94%、R 7：93%）令和10年度まで90%以上を維持する。 また、（保護者対象）学校教育自己診断における進路指導の満足度（R 5：80%、R 6：78%、R 7：82%）を向上させ、令和10年度に85%とする。 3 豊かな感性とたくましく生きるための健康・体力をはぐくむ取組み (1) 充実した学校生活こそが「生きる力」の源泉になることから、富田林中学校からの進学者と高等学校からの入学者がともに学ぶことにより、自らの高い志とともに他者を思いやる心を育成し、学校行事・部活動等の一層の充実を図る。 ア 「生徒に育みたい力」の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を活性化する。 イ 国際社会の一員として他者を思いやる心を育成するために必要な人権意識・マナーを醸成し、互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。 ウ 通級指導教室へ生徒が参加しやすい環境を整える。また、生徒・保護者への周知に努める。 ※（生徒対象）学校教育自己診断の学校行事満足度（R 5：95%、R 6：96%、R 7：95%）令和10年度まで90%以上を維持する。 (2) 異文化交流や共同研究による国際教育を推進する。 ア 国際交流（アメリカ、台湾、オーストラリア、タイ、ネパール、ベトナム等）を継続し、充実させる。 イ・台湾、マレーシア、ネパール、アメリカ、ベトナムの姉妹校や交流校との関係を継続するとともに、海外修学旅行や海外研修等を通じて新規姉妹校の開拓を行う。 ・グローバル人材の育成に向け、多様な海外研修を計画、実施する。 ※（生徒対象）学校教育自己診断結果で国際交流等についての評価（R 5：92%、R 6：92%、R 7：93%）令和10年度まで90%以上を維持する。 4 中高一貫校としての「スクール・ミッション」等の明確化と地域・保護者との連携 (1) 中高一貫校として「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を踏まえ、富田林中学校からの進学者と高等学校からの入学者がともに学ぶことにより教育活動を充実させる。 ア 中高一貫校として「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を踏まえ、中学校および高等学校の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、学校全体で共通認識を構築する。 イ 全国の中高一貫校やSSH校等の教育先進校を視察し、各校の取組みに学び、併設型中高一貫校の教育内容を常に検討し改善を行う。 ウ SSH指定校として相応しい学校Webページとなるよう随時改修しながら、質・量ともに充実した情報発信を行う。 ※（保護者対象）学校教育自己診断における情報発信の満足度（R 5：95%、R 6：94%、R 7：93%）令和10年度まで90%以上を維持する。 (2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。 ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを進めるとともに地域貢献を推進する。 イ 教育環境を整備し、安全・安心な学校づくりに努める。 ※学校教育自己診断における学校満足度(生徒対象 R 5：91%、R 6：92%、R 7：93% ／ 保護者対象 R 5：93%、R 6：92%、R 7：94%)について令和10年度まで90%以上を維持する。 5 働き方改革の推進 (1) 業務の効率化を図り、職員の心身の健康を維持・増進する。 ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則った部活動指導を行い、また全校一斉定時退庁日の徹底等により在校時間を定められた上限の範囲内にする。 イ 根本的に組織体制を見直し、業務の偏りを改善するとともに、効果的・効率的な組織運営ができるように組織改編を行う。
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R 7 年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) ア 観点別評価を踏まえた授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。 イ 各教科において「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。 ウ 「オンライン学習研究委員会」を核として「1人1台端末」の効果的活用を進め、その情報共有を図る校内体制を構築し、生徒の学びを支援、深化させる。	(1) ア・45分×7限授業（高校全学年33単位）により学校生活をデザインする。 ・各教員が「思考を促す授業」を心掛け、「主体的・対話的で深い学び」の授業デザインをもてるようにする。 ・生徒による「授業アンケート」を7月、12月に実施し、全教員による授業改善シートを作成する。 イ・各教科、科目の各単元等が、育む力とどのように関連付けられているか見直すことにより、カリキュラムマネジメントを進める。また、探究等他教科・科目との教科横断的な観点で内容の配置や精選について検討する。 ウ・オンライン学習研究委員会を中心に、授業における端末の効果的な具体的実践について情報共有を図る。	(1) ア・(生徒対象) 学校教育自己診断における授業満足度 90％以上とする。[85％] ・(生徒対象) 学校教育自己診断「深く考えさせる授業が多い」85％以上とする。[84％] ・2回の「授業アンケート」を実施し、全教員が授業改善シートを作成する。[100％] イ・(教員対象) 学校教育自己診断「授業方法や生徒の状況について話し合う機会が多い」90％以上を維持する。[90％] ウ・(生徒対象) 学校教育自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用している」90％以上を維持する。[91％]	
2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み	(1) ア 科目「グローバル探究」では、「地域と連携した探究貢献活動」を展開するとともに、大学や研究機関との連携を深め、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識及び、自己実現意識を育み、世界とつながり活躍できる科学的人材を育成する。 イ・進路希望実現のため、進路指導部及び学力向上委員会が中心となって、キャリア教育を含め様々な取組みの具現化を行う。	(1) ア・本校のSSH（実践型）の目標（課題解決に向けた科学的探究力及びその探究力の基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するプログラムの開発）を具現化するプログラムを実行し、その成果を分析する。 ・SSHとして、「グローバル探究」において、地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO等）との連携や海外との交流を基礎に、ゼミ形式で探究活動を進め、年度末には中学とともに学年での発表や地域フォーラムを開催する。高等学校として科学教育の拠点としての役割を果たす。 イ・本校独自の「学習見える化システム」を活用し、全生徒に将来の目標設定を促す。 ・生徒・保護者への進学説明会を適宜実施する。特に、拡大しつつある「学校推薦型選抜」「総合型選抜」についての情報提供を充実させる。また、キャリア教育をはじめとする各種説明会の実施や、「進路だより」の発行等を通じて、進路についての情報提供を充実させる。 ・生徒のニーズを捉えた進学講習を充実させる。 ・外部模擬試験の結果等の振り返りを、データに基づき効果的に実施する。	(1) ア・(生徒対象) 学校教育自己診断『『探究』などの学習活動によって、深く考える力等が身につく』85％以上を維持する。[86％]（教員対象）学校教育自己診断「生徒は探究活動によって、深く考える力等が身についた」85％以上を維持する。[88％] ・(教員対象) 学校教育自己診断「SSHの取組みは進路実現に役立つ」90％以上を維持する。[90％]また、地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO等）を巻き込んだ地域フォーラムを20団体以上の参加を得て開催する。[16団体] イ・生徒の「見える化システム」の利用率100％を維持する。[100％] ・学校教育自己診断における進路指導の満足度について、生徒：90％以上[93％]、保護者：80％以上[82％]を維持する。 ・生徒：「講習等で進路達成に必要な学力が身につく」90％以上とする。[88％] ・模擬試験結果をデータに基づき振り返る取り組みを2回以上実施する。[7回]	
3 健康・体力をはぐくむ取組みの	(1) ア 「生徒に育みたい力」の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を活性化する。 イ 国際社会の一員として他者を思いやる心を育成するために必要な人権意識・マナーを醸成し、互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。	(1) ア・体育祭や文化祭等をはじめ、学校行事全般において、グローバル・リーダーの資質を涵養すべく、生徒の自主性を引き出す行事運営を行う。 ・中学校とも合同で部活動を実施することにより、多様な観点を育む。 イ・中高6年間を通した人権教育を策定し計画的に実施する。また、学校生活全般において他者を思いやる心の育成を行う。 ・生徒主体で校則の見直しを進めながら、挨拶運動、遅刻指導に取り組み、生活マナーを向上させる。 ・中高一貫した「いじめ基本方針」に基づき、いじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。	(1) ア・(生徒対象) 学校教育自己診断結果における行事満足度 90％以上を維持する。[96％] ・部活動加入率 90％以上を維持する。[92％] イ・変化の激しい時代において新たな観点を取り入れながら人権研修を生徒5回、教職員2回以上実施する。[生徒7回教職員2回] ・(生徒)「生活指導に対する理解」85％以上を維持する。[85％] ・(生徒)「いじめのない学校づくり」に対する満足度 90％以上を維持する。[91％]	

府立富田林高等学校

	(2) ア 国際交流（アメリカ、台湾、オーストラリア、タイ、ネパール、ベトナム等）を継続し、充実させる。 イ 台湾、マレーシア、ネパール、アメリカ、ベトナムの姉妹校や交流校との関係を継続するとともに、海外修学旅行や海外研修等を通じて新規姉妹校の開拓を行う。	(2) ア 海外での交流の可能性を探りつつ、ICT も活用しながら様々な国の生徒との交流を図る。 イ・多様な海外研修を計画し、それぞれの研修のねらいを明確にしつつ各企画を立案、実施する。 ・海外（アメリカ、フィリピン、ネパール、フランス等）の高校生等とオンライン等を活用した交流を継続的に実施する。	(2) ア オンラインなども活用しながら海外の2校以上の学校と交流を続けていく。[4校] イ・ねらいを明確にした海外研修プランを検討し、参加者20名以上（中高）で実施する。[39名] ・(生徒)「学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通してグローバルな視野とコミュニケーション力の育成に努めている」90%以上を維持向上させる。[93%]	
4 中高一貫校としての「スクール・ミッション」等の明確化と地域・保護者との連携	(1) ア 中高一貫の観点で「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を踏まえ、中学校および高等学校の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、学校全体で共通認識を構築する。 イ 全国の中高一貫校やSSH校等の教育先進校を視察し、各校の取組みに学び、併設型中高一貫校の教育内容を常に検討し改善を行う。 ウ SSH指定校として相応しい学校Webページとなるよう随時改修しながら、質・量ともに充実した情報発信を行う。 (2) ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進するとともに地域貢献を推進する。 イ 教育環境を整備し、安全・安心な学校づくりに努める。	(1) ア・中学、高校それぞれの対応する分掌を協働的に機能させる。 ・策定した「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を踏まえ、中高の各取組みについての共通認識の深化を図る。 イ 全国の中高やSSH校を視察してその取組みを学び、併設型中高一貫校としての教育を推進させるためのカリキュラムや組織体制を充実させる。 ウ 5年前に全面改訂した学校 Web ページを随時改修し、各組織においては定期的な情報更新に努める。 (2) ア・学校運営協議会を通して、学校運営や学校の課題に対して、保護者や地域の住民の方々が学校運営に参加して頂く。 ・「めざす学校像」の共有化を図るとともに、コミュニティ・スクールについての情報収集を継続する。 ・地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO等）との連携を進めるとともに「グローバル探究Ⅱ」の成果発表会である地域フォーラムを開催する。 イ 生徒、教職員が快適に過ごせる教育環境を整備する。教育相談委員会の中高連携を強化し、全教職員での共有化を図る。	(1) ア・(教員)「分掌等の機能や中高の協働性」についての3項目の評価平均45%以上をめざす。[40%] イ 全国の併設型中高一貫校やSSH校を視察[3校]するとともに、本校への視察の希望[5団体]を積極的に受け入れ、情報を収集する。 ウ (保護者向け) 学校教育自己診断における情報発信の満足度 90%以上を維持する。[93%] (2) ア・学校満足度について、生徒[93%]、保護者[94%]とともに 90%以上を維持する。 ・地域フォーラムやオープンスクール、地域公開授業等、地域や保護者に対して学校を開く機会を5回以上作る。[8回] ・地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO等）との連携を踏まえた「グローバル探究Ⅱ」の成果発表会である地域フォーラムを、前年度規模以上で開催する。[16団体] イ (生徒)「困っていることや悩みを相談できる先生がいる」80%以上を維持する。[83%]	
5 働き方改革の推進	(1) ア「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則った部活動指導を行い、また全校一斉定時退庁日の徹底等により在校時間を定められた上限の範囲内にする。 イ 根本的に組織体制を見直し、業務の偏りを改善するとともに、効果的・効率的な組織運営ができるように組織改編を行う。	(1) ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」の徹底を図り、全校一斉定時退庁日の呼び掛けを強化し定時退勤を促す。また、月毎の時間外勤務の総時間を職員にフィードバックして働き方見直しへの契機を作り、時間外在校時間が上限（45時間／月）を超えないようにする。 イ・令和8年度より実施する分掌の改編により、学校運営の円滑化と効率化を行う。 ・業務の偏りを改善し、校務分掌の役割を明確化して、校内での情報共有を行うことにより、継続性を持たせるとともに、教職員の育成に役立てる。	(1) ア ノークラブデーや全校一斉定時退庁日が徹底されているか。特に全校一斉退庁日を徹底し、一人当たりの1ヶ月平均時間外勤務[41時間（12月まで）]を昨年度より削減する。また、年間の時間外在校等時間が720時間を超える教育職員をゼロにする。 イ・本年度より実施する分掌改編により、学年や分掌での業務の偏りを是正するとともに、委員会の改編や内規の整理などを行い、安定した学校運営を行う。 ・(教員)「富田林高校での勤務満足度」80%以上を維持する。[80%]	